

高岡地区事業所

景況レポート

今期(2025年1～3月期)実績、来期(2025年4～6月期)見通し

2025年1～3月期

このレポートは高岡市内198社、射水市20社、その他3社の合計221社について景気の現況と見通しを調査したものです。
(回答194社、87.8%)

高岡信用金庫

今期(1～3月)は、建設業、不動産業等、一部の業種を除き、ほとんどの業種で売上、収益ともに前期を大きく下回る結果となり、4期ぶりの落込みとなった。

来期(4～6月)については、製造業を中心に今期比上昇を見込むが、長引く物価上昇や人件費等の増加、および米国の関税政策等による先行き不透明感から、ほとんどの業種で景況感はいマイナスが続くと予想している。

◇概況

2025年2月の有効求人倍率は、全国平均1.24倍で前月比0.02ポイント減少(富山県は1.40倍で前月比0.01ポイント上昇)。

一方、3月の国内企業物価指数(速報値)は前月比+0.4%、前年比では+4.2%と前月の伸び率を上回り、2024年度の指数でも過去最高を更新した。また、今期(1～2月)の消費活動指数(季節調整済・旅行収支調整済)は97.2(2015年=100)となり、前期(10～12月)比では+0.1%、前年同期比では+0.8%であった(日本銀行HPより)。

当庫の調査においては、今期(1～3月)の景況感(D.I.)は、売上、収益ともに、前期を大きく下回る結果となった。

来期(4～6月)については、売上、収益ともに今期実績を上回る上昇を見込んでいる。

令和7年1月～3月期の日経平均株価は、日銀の利上げ観測の高まりを受けた円高進行や、トランプ米大統領による関税政策への不透明感から軟調に推移した。3月下旬には、米国の自動車関税や相互関税発動を4月に控え、世界的な景気減速懸念が一段と強まり、半年ぶりに36,000円を割り込み、35,617円で引けた。

【日経平均株価】 (単位：円)

	最 高	最 低
1 月	40,083	38,444
2 月	39,461	37,155
3 月	38,027	35,617

◇業況

今期(1～3月期)の全業種の業況(前年同期と比較した増減率の平均)は、売上額▲1.3%、売上数量▲1.5%、収益が▲1.8%となり、前期(10～12月期)との比較においては、売上額、売上数量、収益ともに減少した。

また、今期における全業種平均での売上額D.I.は、前期より32.6ポイント低下の▲21.6となり、収益D.I.も32.9ポイント低下の▲22.8といずれも前期を大きく下回る結果となった。

来期(4～6月期)見通しの全業種平均のD.I.は、売上額で今期より16.0ポイント上昇し▲5.6を予想、収益でも今期より8.7ポイント上昇の▲14.1を予想している。

	5%以内		－5%以内
	10%以内		－10%以内
	20%以内		－20%以内
	20%超		－20%超

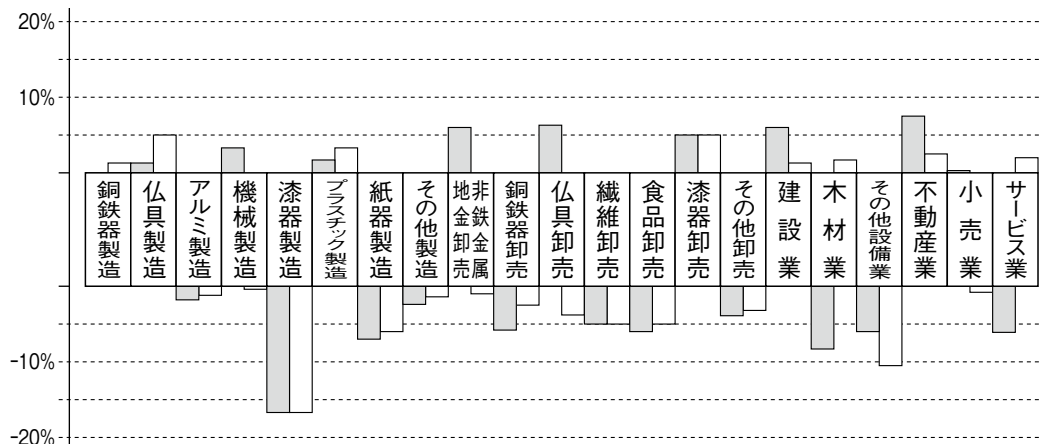
景況天気図(売上額、数量、収益)

業 種		1～3月期 実 績	4～6月期 見 通 し
製 造 業	全 体		
	全 般		
	一般銅鉄器		
	仏 具		
	ア ル ミ		
	機 械		
	漆 器		
	プラスチック		
	紙 器		
	その他製造業		
卸 売 業	全 般		
	非鉄金属地金		
	銅 鉄 器		
	仏 具		
	織 維		
	食 品		
	漆 器		
設 備 関 係 業	その他卸売業		
	全 般		
	建 設		
	木 材		
	その他設備業		
不 動 産 業			
小 売 業			
サ ー ビ ス 業			

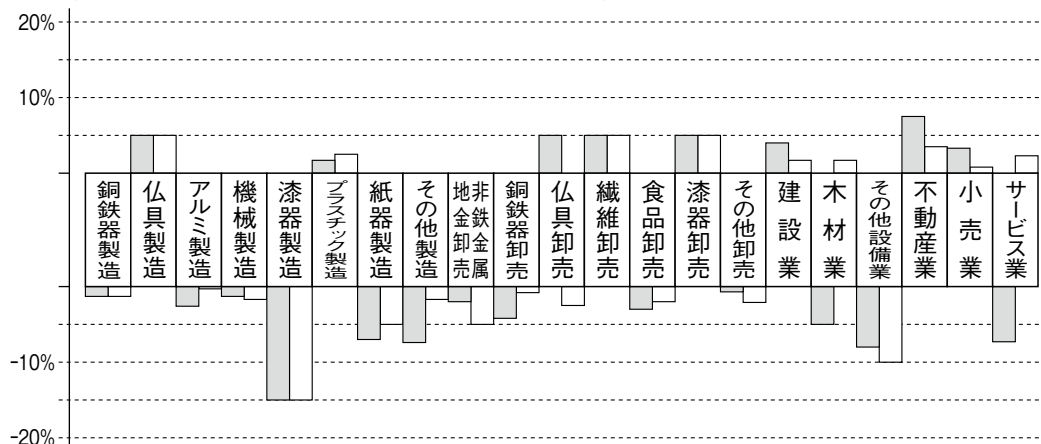
1. 全業種総合

売上額と収益の現状及び見通し(対前年同期比増加率)

〔売上額の現状 (2025年1月～3月) 〇〇〇〇〇〇〕
 売上額の見通し(2025年4月～6月) 〇〇〇〇〇〇〕



〔収益の現状 (2025年1月～3月) 〇〇〇〇〇〇〕
 収益の見通し(2025年4月～6月) 〇〇〇〇〇〇〕



売上額と収益の推移(対前期比)

〔売上額(受注額)〕

(%)

	2024年 4月～6月	2024年 7月～9月	2024年 10月～12月	2025年1月～3月		2025年4月 ～6月予想
				見通し	実績	
増 加	37.7	29.8	41.4	25.3	26.3	24.4
変わらず	27.1	36.7	28.2	35.9	25.8	45.6
減 少	35.2	33.5	30.4	38.8	47.9	30.0
「増加」-「減少」	2.5	▲ 3.7	11.0	▲13.5	▲21.6	▲ 5.6

〔収 益〕

(%)

	2024年 4月～6月	2024年 7月～9月	2024年 10月～12月	2025年1月～3月		2025年4月 ～6月予想
				見通し	実績	
増 加	31.1	26.3	39.5	22.6	25.7	22.9
変わらず	33.2	36.3	31.1	42.4	25.8	40.1
減 少	35.7	37.4	29.4	35.0	48.5	37.0
「増加」-「減少」	▲ 4.6	▲11.1	10.1	▲12.4	▲22.8	▲14.1

◇売上額D.I. (「増加」－「減少」の社数構成比)

今期(1～3月期)の全業種総合の売上額D.I.は、▲21.6となり、前期(10～12月期)に比べ32.6ポイント低下。

来期(4～6月期)についてのD.I.は、▲5.6となり、今期に比べ16.0ポイントの上昇を予想している。

◇収益D.I. (「増加」－「減少」の社数構成比)

今期(1～3月期)の全業種総合の収益D.I.は、▲22.8となり、前期(10～12月期)に比べ32.9ポイントの低下。

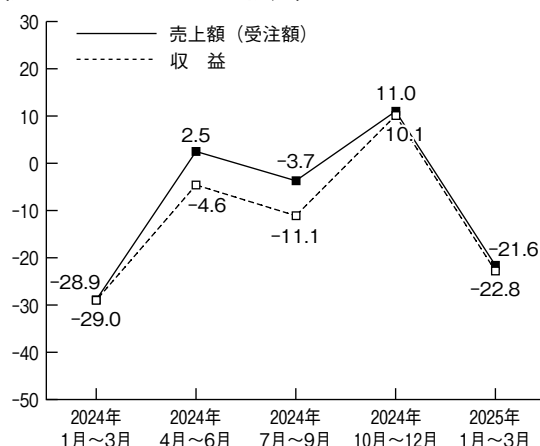
来期(4～6月期)についてのD.I.は、▲14.1となり、今期に比べ8.7ポイントの上昇を予想している。

◇在庫数量D.I. (「増加」－「減少」の社数構成比)

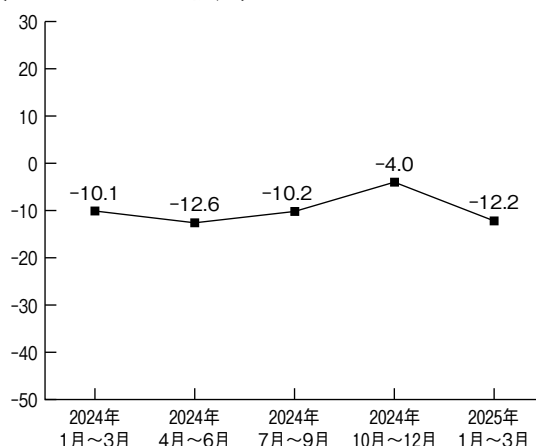
今期(1～3月期)の全業種総合の在庫数量D.I.は、▲12.2となり、前期(10～12月期)に比べ8.2ポイントの低下となった。

来期(4～6月期)についてのD.I.は、▲10.7となり、今期に比べ1.5ポイントの小幅上昇を予想している。

〔売上額 収益D.I.推移表〕



〔在庫数量D.I.推移表〕



〔資金繰り〕

(%)

今期 順位	項 目	構成ウェイト	
		今 期	前 期
1	変わらず	73.0	67.0
2	やや苦しい	14.0	16.2
3	やや楽	6.2	12.3
4	苦しい	4.7	1.1
5	楽	2.1	3.4

〔経営上の問題点〕

(%)

今期 順位	項 目	構成ウェイト	
		今 期	前 期
1	売上・受注の停滞・減少	25.2	21.7
2	原(材)料価格の上昇	12.0	11.8
3	人手不足	11.2	12.8
4	人件費の増加	6.7	7.0
5	競争の激化	6.2	5.9

2. 製造業

◇概 況

製造業全般における今期の前年同期(1年前)と比較した増減率の平均は、売上額▲1.5%、売上数量▲2.2%、収益▲3.8%となった。前期比では、売上額で2.3ポイントの低下、売上数量で1.3ポイントの低下、収益では5.6ポイントの低下となり、売上額、売上数量では3期ぶり、収益では4期ぶりの低水準となった。

製造業の内、仏具、プラスチックが売上額、売上数量、収益ともに前年同期比で増加し、対前期比で売上額、売上数量、収益ともに増加した業種はなかった。

今期の製造業全般における売上額D.I.は、前期より46.7ポイント低下し▲33.3、収益D.I.は、36.7ポイント低下し▲29.3となり、いずれも前期での予想を大きく下回る悪化となった。

一方で、来期見通しのD.I.については、売上額で今期より27.9ポイント上昇の▲5.4、収益においても、今期より16.7ポイント上昇し▲12.6を予想している。

経営上の問題点については、「売上・受注の停滞・減少」との回答が前期より5.9ポイント増加の32.0%と最も多く、次いで「原(材)料価格の上昇」が前期比2.8ポイント減少の12.6%であった。

現 状	見通し

(銅鉄器)

銅鉄器製造における売上額D.I.は、前期に比べ115ポイント低下し▲75.0、収益D.I.も、115.0ポイント低下し▲75.0となった。

来期についてのD.I.は、売上額で50.0ポイント上昇の▲25.0、収益も50.0ポイント上昇の▲25.0を予想している。

在庫水準は、やや少ないが50.0%、多い、やや多いがいずれも25.0%であった。

(仏 具)

仏具製造における売上額D.I.は、前期に比べ8.4ポイント上昇し▲25.0となり、収益D.I.も、8.4ポイント上昇し▲25.0となった。

来期についてのD.I.は、売上額、収益ともに50.0ポイント上昇し、いずれも25.0を予想している。

在庫水準は、やや少ないが50.0%、やや多い、適正がいずれも25.0%であった。

(アルミ)

アルミ製造における売上額D.I.は、前期に比べ54.4ポイント低下し▲41.1、収益D.I.は前期に比べ61.1ポイント低下の▲41.1となり、いずれも前期での予想を大きく下回る結果となった。

来期についてのD.I.は、売上額で▲11.7、収益も▲17.6を予想し、今期比上昇を見込んでいる。

在庫水準は、適正が86.7%、やや多い、やや少ないがいずれも6.7%との回答であった。

(機 械)

機械製造における売上額D.I.は、5期ぶりに前期実績を下回り16.7、収益D.I.も3期ぶりの前期比低下となる16.6となった。

来期についてのD.I.は、売上額で0.1ポイント低下の16.6、収益では8.3ポイント上昇の24.9を予想している。

在庫水準は、適正が72.7%、多い、やや多い、少ないがいずれも9.1%との回答であった。

(漆 器)

漆器製造における売上額D.I.は、前期に比べ41.7ポイント低下し▲66.7、収益D.I.も41.7ポイント低下し▲66.7となった。

来期についてのD.I.は、売上額で▲100.0と低下、収益では今期と同水準を予想している。

在庫水準は、少ないが66.7%、やや少ないが33.3%との回答であった。

(プラスチック)

プラスチック製造における売上額D.I.は、前期に比べ99.9ポイントと大きく低下し0.1、収益D.I.は23.4ポイント低下の16.6となり、前期での予想どおり、いずれも4期ぶりの前期比低下となった。

来期についてのD.I.は、売上額では33.2ポイント上昇の33.3、収益では0.1ポイント上昇の16.7を予想している。

在庫水準は、適正が66.7%、やや多いが33.3%であった。

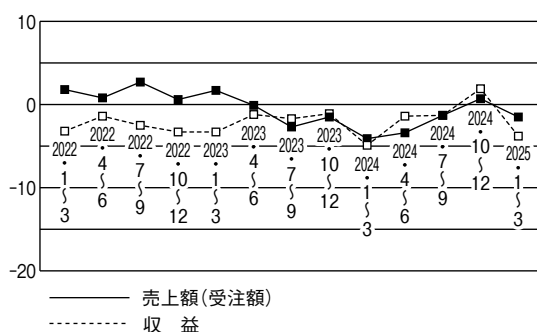
(紙 器)

紙器製造における売上額D.I.は、前期に比べ80.0ポイント低下の▲80.0、収益D.I.は前期比60.0ポイント低下の▲60.0となり、いずれも前期での予想どおりの結果となった。

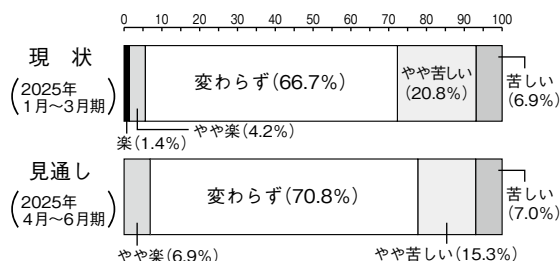
来期についてのD.I.については、売上額で40.0ポイント上昇の▲40.0、収益では20.0ポイント上昇の▲40.0を予想している。

在庫水準は、適性が75.0%、やや多いが25.0%であった。

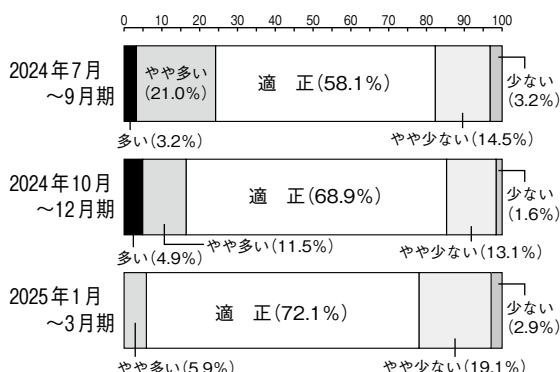
〔売上額、収益の動き(対前年同期比)〕



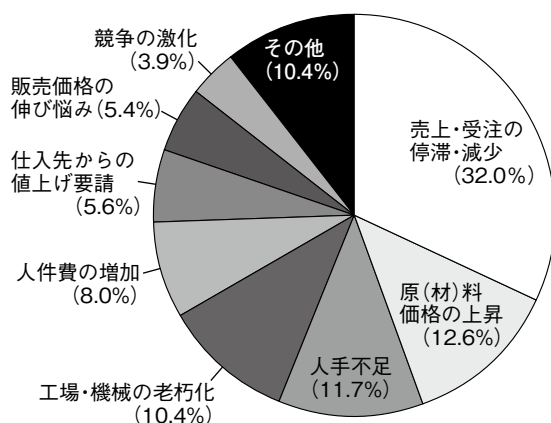
〔資金繰りの現状と見通し〕



〔手持ち在庫の動き〕



〔経営上の問題点〕



3. 卸売業

◇概況

卸売業全般における今期の前年同期(1年前)と比較した増減率の平均は、売上額▲1.5%、売上数量▲1.9%、収益▲0.4%となった。前期比では、売上額で1.0ポイント、売上数量で0.8ポイント、収益で2.6ポイントといずれも減少した。

卸売業の内、仏具、漆器が売上額、売上数量、収益ともに前年同期比で増加し、対前期比では繊維、漆器、その他卸が売上額、売上数量、収益ともに増加した。

今期の売上額D.I.は、前期に比べ26.1ポイント低下し▲23.1、収益D.I.も前期比25.3ポイント低下し▲28.3となり、前々期に戻るような水準となった。

来期についてのD.I.は、売上額で▲20.6と若干の上昇を見込むが、収益では23.0ポイント低下の▲51.3を予想している。

経営上の問題点については、「売上・受注の停滞・減少」が26.4%で最上位であり、次いで「人件費以外の経費の増加」が8.8%であった。

(非鉄金属地金)

非鉄金属地金卸における売上額D.I.は、前期に比べ60.0ポイント低下の▲60.0、収益D.I.も40.0ポイント低下し▲60.0となった。

来期についてのD.I.は、売上額で▲40.0と今期比上昇を見込むが、収益では今期比低下の▲80.0を予想している。

経営上の問題点については、「原(材)料の入手難」が20.0%、次いで「人件費以外の経費の増加」が16.7%であった。

(銅鉄器)

銅鉄器卸における売上額D.I.は、前期比90.1ポイント低下し▲50.1、収益D.I.も前期比120.0ポイント低下し▲100.0であった。

来期についてのD.I.は、売上額では0.1と今期比50.2ポイント上昇、収益では今期と変わらず▲100.0を予想している。

経営上の問題点では、「売上・受注の停滞・減少」が34.3%で最上位となり、次いで「下請けの確保難」が20.0%であった。

(仏具)

仏具卸における売上額D.I.は、前期比66.6ポイント低下の0.0、収益D.I.も58.4ポイント低下し▲25.0となった。

来期についてのD.I.は、売上額で今期比25.0ポイント低下の▲25.0、収益では50.0ポイント低下の▲75.0を予想している。

経営上の問題点については、「売上・受注の停滞・減少」が45.8%と前期に続き最上位であった。

(繊維)

繊維卸における売上額D.I.は、前期に比べ50.0ポイント上昇し▲50.0となったが、収益D.I.は3期連続の0.0であった。

来期についてのD.I.は、売上額、収益ともに今期と同水準を予想している。

経営上の問題点については、前期同様、「売上・受注の停滞・減少」が50.0%で最上位であった。

(食品)

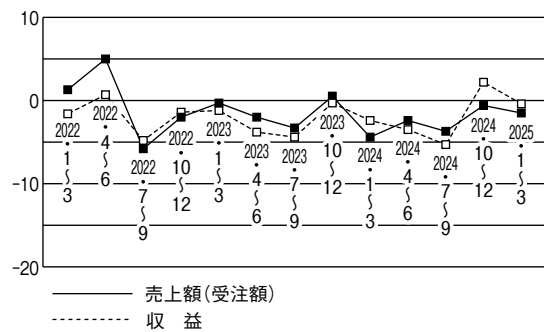
食品卸における売上額D.I.は、前期に比べ20.0ポイント低下し▲20.0、収益D.I.は前期と変わらず0.0であった。

来期についてのD.I.は、売上額で今期比20.0ポイント低下の▲40.0、収益では今期比80.0ポイント低下の▲80.0を予想している。

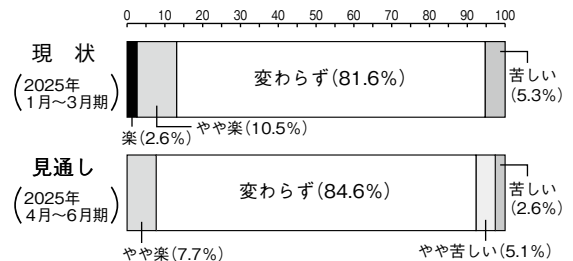
経営上の問題点については、「販売商品の不足」が20.7%で最上位であった。

現 状	見 通 し
	

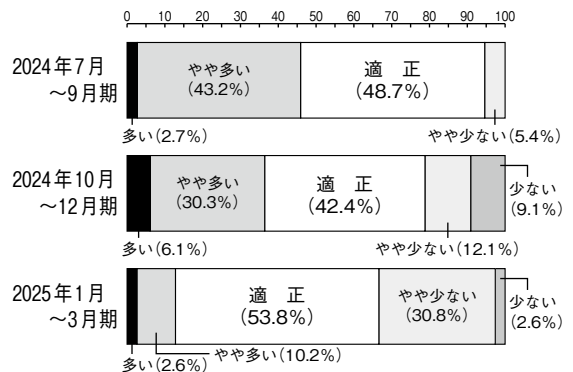
〔売上額、収益の動き(対前年同期比)〕



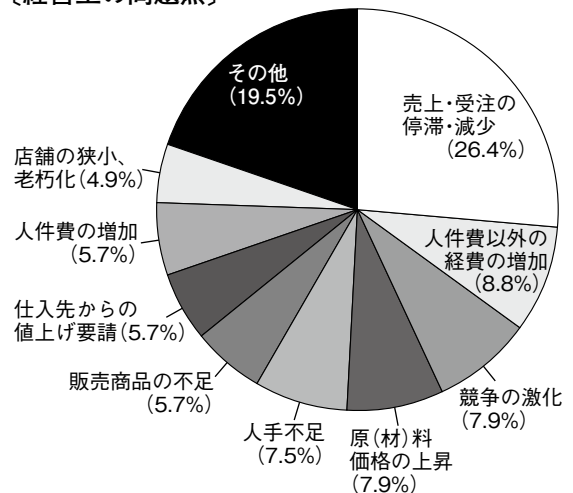
〔資金繰りの現状と見通し〕



〔手持ち在庫の動き〕



〔経営上の問題点〕



4. 設備関係業

◇概況

設備関係業全般における今期の前年同期(1年前)と比較した増減率の平均は、売上額▲0.6%、売上数量▲0.2%、収益▲1.6%となった。前期比では、売上額で2.5ポイント、売上数量で2.8ポイント、収益で2.5ポイントといずれも減少となった。

設備関係業については、建設のみが売上額、売上数量、収益ともに前年同期比および対前期比で増加した。

来期は、売上額で▲2.4%、売上数量で▲1.0%、収益でも▲2.1ポイントといずれも減少を予想している。

今期の売上額D.I.は、前期に比べ12.5ポイント低下し▲6.3、収益D.I.は37.7ポイント低下し▲12.8となり、いずれも3期ぶりのマイナスとなった。

来期についてのD.I.は、売上額で0.2ポイント低下し▲6.5、収益では6.2ポイント上昇の▲6.6を予想している。

経営上の問題点については、「売上・受注の停滞・減少」が19.7%で最上位であった。

(建設)

建設業における売上額D.I.は、前期に比べ4.0ポイント上昇し33.3、収益D.I.は前期に比べ15.3ポイント低下し19.9となり、いずれも前期での予想を上回る結果となった。

来期についてのD.I.は、売上額で前期比6.8ポイント低下の26.5、収益でも前期比5.6ポイント低下の14.3を予想している。

経営上の問題点については、「人手不足」と「原(材)料価格の上昇」がいずれも21.0%で最上位となった。

(木材)

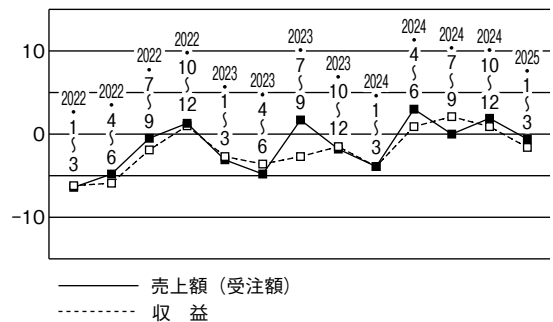
木材業における売上額D.I.は、前期に比べ0.1ポイント低下し▲33.4となったが、収益D.I.は前期に比べ83.2ポイントと大きく低下し▲49.9であった。

来期についてのD.I.は、売上額で49.9ポイント上昇し16.5、収益でも前期比49.8ポイント上昇の▲0.1を予想している。

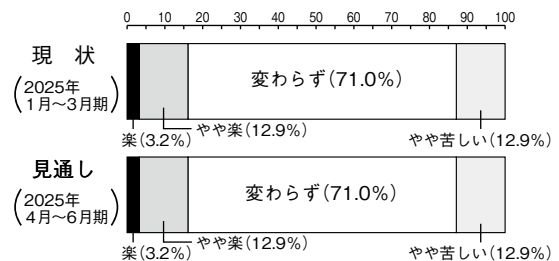
経営上の問題点については、「売上・受注の停滞・減少」が28.1%で最上位、次いで「販売価格の伸び悩み」「競争の激化」「原(材)料価格の上昇」がいずれも12.5%であった。

現 状	見 通 し
	

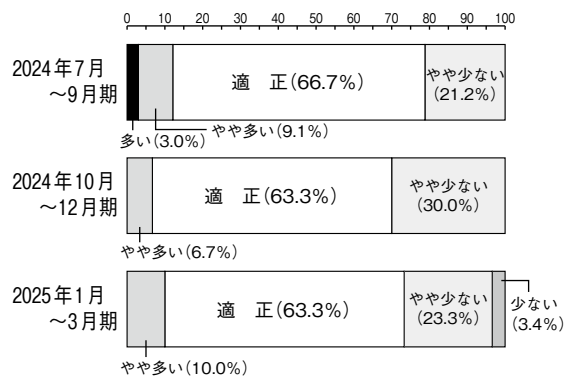
〔売上額、収益の動き(対前年同期比)〕



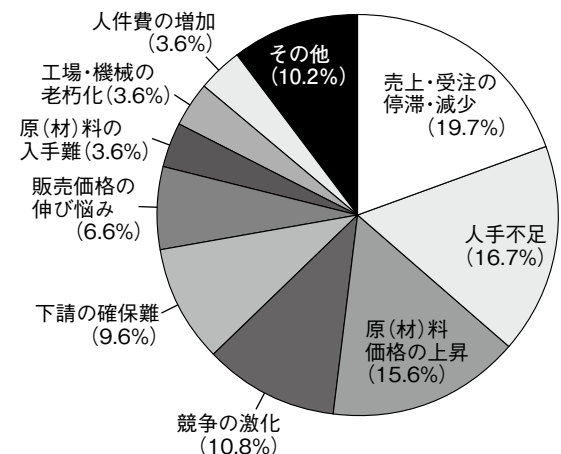
〔資金繰りの現状と見通し〕



〔手持ち在庫の動き〕



〔経営上の問題点〕



[参 考]

高岡市、富山市、射水市、砺波市に於ける新設住宅着工戸数

項目 期間	高 岡 市		富 山 市		射 水 市		砺 波 市	
	総戸数	内、木造	総戸数	内、木造	総戸数	内、木造	総戸数	内、木造
2023年12月 ～ 2024年 2 月	134	132	428	339	60	60	67	47
2024年 3 月 ～ 5 月	234	217	753	469	82	67	38	36
2024年 6 月 ～ 8 月	209	183	676	504	79	78	47	34
2024年 9 月 ～ 11月	239	222	975	631	130	113	98	72
2024年12月 ～ 2025年 2 月	83	79	626	369	121	120	72	55

(富山県庁ホームページより引用)

高岡市に於ける利用関係別新設住宅着工戸数(2024年12月～2025年2月)

()内は前年同期比

	持 家	貸 家	給与住宅	分譲住宅	計
一 戸 建	61 (+ 4)	1 (+ 1)	0 (▲ 1)	16 (▲ 7)	78 (▲ 3)
長 屋	0 (▲ 2)	5 (▲36)	0 (▲ 2)	0 (± 0)	5 (▲40)
共同住宅	0 (± 0)	0 (▲ 8)	0 (± 0)	0 (± 0)	0 (▲ 8)
計	61 (+ 2)	6 (▲43)	0 (▲ 3)	16 (▲ 7)	83 (▲51)

(富山県庁ホームページより引用)

5. 不動産業

◇概 況

不動産業における今期の前年同期(1年前)と比較した増減率の平均は、売上額7.5%、売上数量7.5%、収益7.5%と4期連続ですべてプラスとなった。

来期は、売上額で5.0ポイント減少の2.5%、売上数量も5.0ポイント減少の2.5%、収益では4.0ポイント減少の3.5%を予想している。

今期の売上額D.I.は、前期に比べ20.0ポイント上昇し30.0となり、収益D.I.も前期比20.0ポイント上昇の30.0であった。

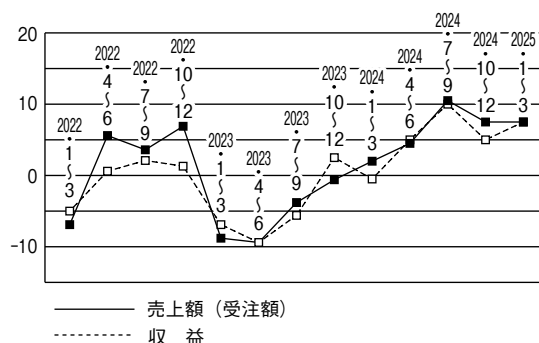
来期についてのD.I.は、売上額で0.0、収益で10.0といずれも今期比低下を予想している。

在庫水準については、やや少ないが50.0%、やや多いと適正が20.0%、少ないが10.0%との回答であった。

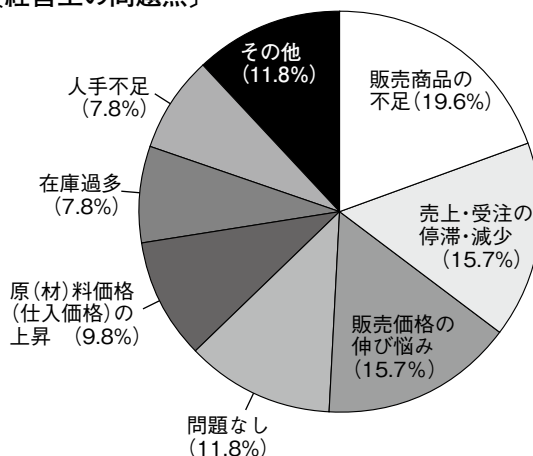
経営上の問題点については、前回に続き「販売商品の不足」が19.6%で最上位であった。その他、「売上・受注の停滞・減少」や「販売価格の伸び悩み」との回答が増加している。

現 状	見 通 し
	

〔売上額、収益の動き(対前年同期比)〕

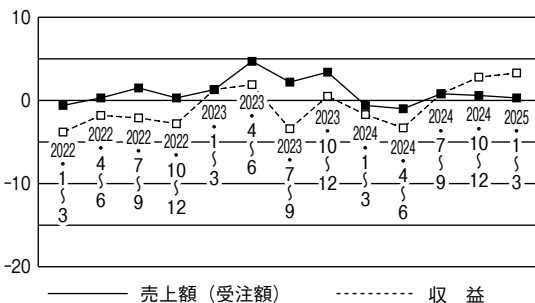


〔経営上の問題点〕



6. 小売業

〔売上額、収益の動き〕
(対前年同期比)



◇概況

小売業における今期の前年同期(1年前)と比較した増減率の平均は、売上額で0.3%、売上数量▲0.8%、収益は3.3%となった。前期比では、売上額で0.4ポイントの減少となったが、売上数量では0.5ポイント、収益では0.4ポイントの増加であった。

来期については、売上額で1.1ポイント減少の0.8%、売上数量で1.0ポイント減少の▲1.8%、収益でも2.5ポイント減少の0.8%を予想している。

今期の売上額D.I.は、3期ぶりの前期比上昇となる▲15.0となり、収益D.I.では2期連続の前期比上昇の15.0となった。

来期についてのD.I.は、売上額で今期と同じ0.0、収益では今期比5.0ポイント低下の10.0を予想している。

在庫水準は、適正が45.0%、やや多いが40.0%、やや少ないが15.0%であった。

経営上の問題点としては、前期と同様「売上・受注の停滞・減少」が26.6%と前期に続き最上位となり、次いで「店舗の狭小・老朽化」が前期比6.5ポイント増加し10.8%であった。また、「人件費の増加」が前期比3.2ポイント増加した。

(自動車)

県内の2025年1～3月(3カ月)の新車登録台数は、一連の認証不正問題が解消したことによる生産・販売再開や年度末の需要期等もあり、前期(10～12月)比で113.8%となり、前年同期間の実績比でも107.8%となった。

そのうち、普通・小型乗用車についても、4期ぶりに前期実績を上回り(前期比115.7%)、前年同期間の実績比でも105.4%と5期ぶりに上回った。

(軽四自動車)

県内の2025年1～3月(3カ月)の新車登録台数は、一部メーカーの生産一時停止等も解消し、前期実績を大きく上回り(前期比112.4%)、前年同期間での実績比でも108.4%と回復が見られた。

中古車(乗用)については、前期比では102.1%となったが、前年同期間の実績比では96.7%と伸び悩んだ。

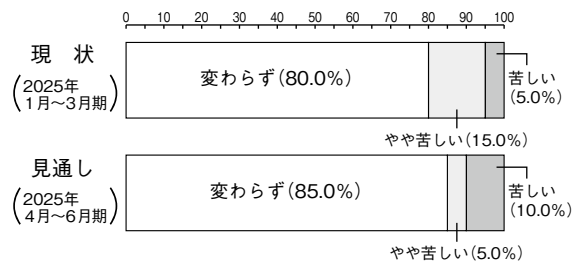
〔参 考〕

〔自動車：新車登録台数〕

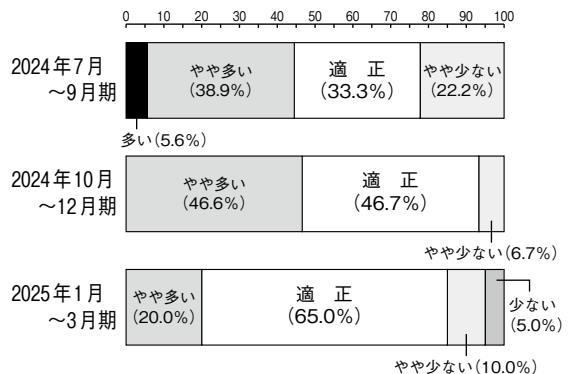
期間	項目	普通乗用	小型乗用
2024年4月～6月		3,267	1,838
7月～9月		3,571	2,190
10月～12月		3,421	2,010
2025年1月～3月		4,011	2,270

(富山県自動車販売店協会 調べ)

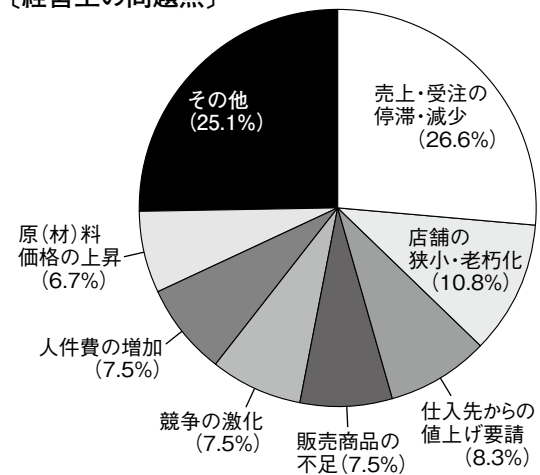
〔資金繰りの現状と見通し〕



〔手持ち在庫の動き〕



〔経営上の問題点〕



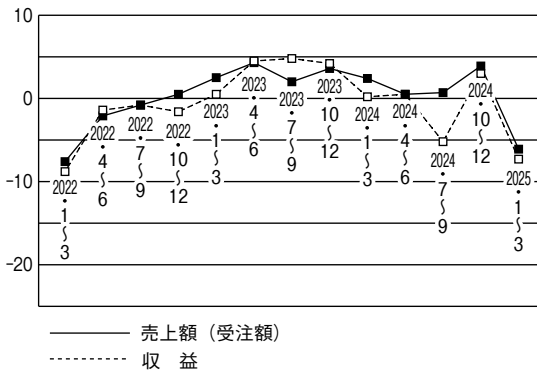
〔軽四自動車：新規検査状況〕

期間	項目	新車	中古車
2024年4月～6月		3,069	1,759
7月～9月		4,091	1,327
10月～12月		3,493	1,287
2025年1月～3月		3,927	1,314

(富山県軽自動車検査協会 調べ)

7. サービス業

〔売上額、収益の動き〕
(対前年同期比)



◇概況

サービス業における今期の前年同期(1年前)と比較した増減率の平均は、売上額▲6.1%、売上数量▲5.5%、収益▲7.3%といずれも前期比で減少となり、売上額は10期ぶり(2年半ぶり)のマイナスとなった。

来期については、売上額で2.0%、売上数量1.6%、収益2.3%と、いずれも今期比増加を予想している。

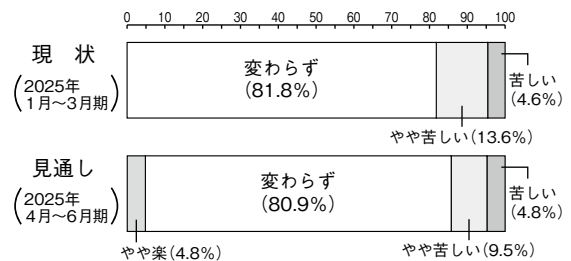
今期の売上額D.I.は、前期より77.3ポイントと大きく低下し▲31.8、収益D.I.も78.0ポイント低下し▲63.7となり、いずれも前期での予想をさらに下回る結果となった。

しかし、来期の売上額D.I.は、今期より46.1ポイント上昇の14.3、収益D.I.も68.6ポイント上昇の4.9を予想している。

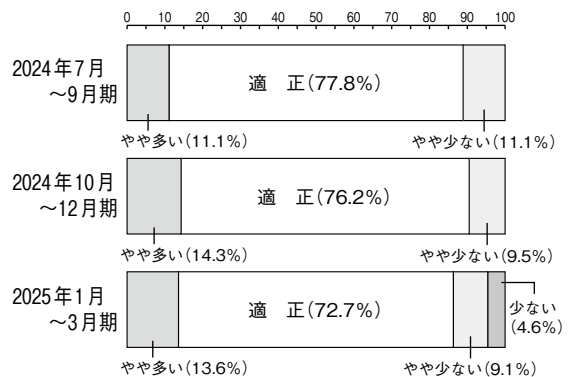
経営上の問題点としては、前回2番目であった「原(材)料価格の上昇」が18.6%(前期比0.8ポイント増加)で最上位となり、次いで前回トップの「人手不足」が16.3%(前期比2.3ポイント減少)であった。

現 状	見 通 し

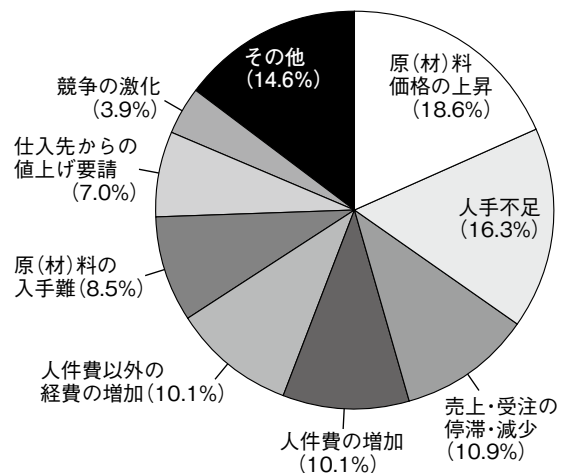
〔資金繰りの現状と見通し〕



〔手持ち在庫の動き〕



〔経営上の問題点〕



〔参 考〕

〔高 速 自 動 車 道 利 用 状 況〕

(単位：千台)

IC名	年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
高岡北 (能越)	2024年	334	408	435	447	466	434	460	477	445	458	461	433
	2025年	408	343	462									
小矢部東 (能越)	2024年	158	179	200	210	215	184	198	227	198	218	215	190
	2025年	175	149	206									
小 杉 (北陸)	2024年	230	254	291	304	310	288	301	327	295	319	306	291
	2025年	256	228										

各インター通過(乗降)台数の合計

能越道(高岡北IC～高岡IC間)：国土交通省富山河川国道事務所調べ

能越道(小矢部東)：能越自動車管理事務所調べ

北陸道(小 杉)：中日本高速道路(株)金沢支社調べ

8. 設備投資動向

設備投資の概要

今期において1,000万円以上の設備投資を実施したと回答した企業は15社となり、前回調査時より3社減少した。内訳では、生産等機械設備に関わるものが8社、社屋、工場、店舗等の新・増設や改修・保守等が3社、トラック等車両の購入が3社、その他1社であった。

今後3ヶ月の間に1,000万円以上の設備投資を予定している企業は20社で、前回調査時において実施予定と回答した企業数から4社増加した。

今後の設備投資の目的

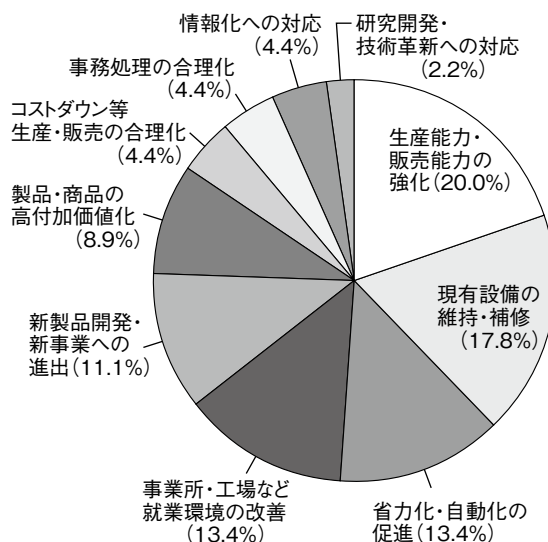
今後、設備投資を予定している企業の目的は

- ① 生産能力・販売能力の強化……………(20.0%)
- ② 現有設備の維持・補修……………(17.8%)
- ③ 省力化・自動化の促進……………(13.4%)
- ③ 事業所・工場など就業環境の改善 ……(13.4%)
- ④ 新製品開発・新事業への進出 ……(11.1%)
- ⑤ 製品・商品の高付加価値化……………(8.9%)
- ⑥ コストダウン等生産・販売の合理化…(4.4%)
- ⑥ 事務処理の合理化……………(4.4%)
- ⑥ 情報化への対応……………(4.4%)
- ⑦ 研究開発・技術革新への対応……………(2.2%)

今回の調査では、『生産能力・販売能力の強化』が前回より3.9ポイント上昇し、3期ぶりにトップとなり、前回トップの『現有設備の維持・補修』が、前回から14.5ポイント低下し2位となった。

また、『事業所・工場など就業環境の改善』が前回比7.0ポイント上昇と順位を上げたほか、『製品・商品の高付加価値化』が前回調査時より5.6ポイント上昇している。

〔今後の設備投資の目的〕



設備投資の判断基準

今後の設備投資に当たっての判断基準について

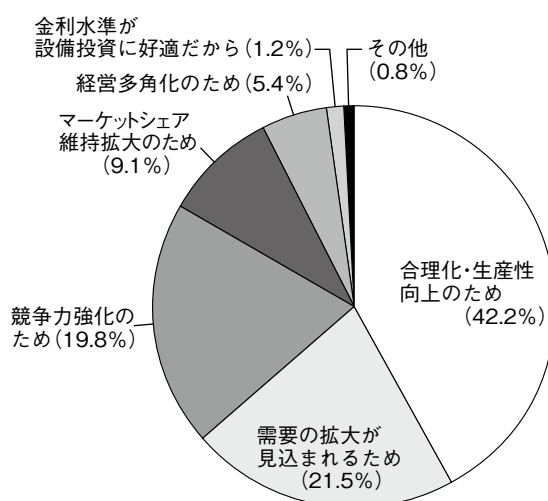
- ① 合理化・生産性向上のため……………(42.2%)
- ② 需要の拡大が見込まれるため……………(21.5%)
- ③ 競争力強化のため……………(19.8%)
- ④ マーケットシェア維持拡大のため ……(9.1%)
- ⑤ 経営多角化のため……………(5.4%)
- ⑥ 金利水準が設備投資に好適だから ……(1.2%)
- ⑦ その他……………(0.8%)

今回もトップ項目であった『合理化・生産性向上のため』については、前回と同様、不動産業を除く業種で判断基準のトップ項目となった。

2位の『需要の拡大が見込まれるため』についても、不動産業を除く業種で前回調査時より増加している。

その他、建設業等の設備関係業種においては、『経営多角化のため』が前回に比べ増加しているほか、不動産業では『競争力強化のため』が大幅に増加している。

〔設備投資の判断基準〕



ご好評につき、キャンペーン期間を延長しました!!

「たかしんマイカーローン特別金利キャンペーン」のご案内

このたび高岡信用金庫では、長引く物価高や今後の金利上昇に不安を持たれている地域のみなさまのために、特別金利(固定金利1.40%)のマイカーローンをご用意させていただきました。お車の購入等をご検討の場合は、お取引の店舗または下記までご連絡願います。

当金庫は、地域の皆さまに愛され、親しまれる身近な信用金庫を目指し、より一層の金融サービスを提供してまいりますので、今後ともご愛顧のほど宜しくお願い申し上げます。

記

【マイカーローン特別金利キャンペーンの概要】

1. 特別金利キャンペーンをご利用いただける方(WEB完結マイカーローンの場合)

- ・満18歳以上で安定継続した収入のある方かつ保証会社の保証が受けられる方
- ・以下のお取引のうち、いずれか1つ以上のお取引をいただいている方
 - ① カードローン(しんきん保証基金付)をご契約いただいている方
(マイカーローンとの同時申込も可能です)
 - ② 給振口座に当金庫の口座をご指定いただいている方
 - ③ 年金振込口座に当金庫の口座をご指定いただいている方

2. キャンペーン期間

令和6年10月21日(月)から令和7年5月30日(金)まで

3. ご融資金額

1,000万円以内(1万円単位)

4. ご融資期間

3ヶ月以上10年以内

5. ご融資利率

1.40%(固定金利、保証料込み) ※審査可決から最長6カ月まで、特別金利を適用します。

その他の商品概要等、詳しくは、当庫ホームページをご覧ください。店頭または担当者までご相談ください。

本件にかかる問い合わせ先

高岡信用金庫 営業推進部

TEL: 0766-23-1225

E-mail: gyomu@takaoka-shinkin.co.jp



〒933-8611 高岡市守山町68番地

TEL 0766-23-1222(代表)

<https://www.shinkin.co.jp/takaoka/>

